教文館　新刊案内　10月25日発売予定

イエスの「神の国」のイメージ

――ユダヤ主義キリスト教への影響史

大貫　隆 著

史的イエスの全体像を描き出す大胆な試み

来るべき「神の国」を宣べ伝えるイエスが紡ぎ出していた、初期ユダヤ教の黙示思想を背景とする“「神の国」のイメージ・ネットワーク”とは何だったのか？緻密な分析から福音書テキストを再解釈し、ユダヤ主義キリスト教会の終末論に及ぼした影響を探索する。フィロンの著作や偽クレメンス文書など重要な古代文献を渉猟し、史的イエス研究の新たな視座を提示する珠玉の論考集。

《著者紹介》大貫　隆（おおぬき・たかし）… 1945年静岡県生まれ。1979年ミュンヘン大学にて神学博士号（Dr. theol.）取得。1980年東京大学大学院人文科学研究科西洋古典学博士課程修了。1980～91年東京女子大学、1991～2009年東京大学大学院総合文化研究科、2009～14年自由学園最高学部勤務。現在、東京大学名誉教授。
著書に『イエスという経験』『イエスの時』『聖書の読み方』（岩波書店）、『終末論の系譜』（筑摩書房）、『隙間だらけの聖書』『神の国とエゴイズム』『ロゴスとソフィア』『真理は「ガラクタ」の中に』（教文館）ほか。訳書に『ヨハネ文書』『ナグ・ハマディ文書』全4巻（共訳、岩波書店）、エイレナイオス「異端反駁」『キリスト教教父著作集』2/Ⅰ・2/Ⅱ・3/Ⅲ、ヒッポリュトス「全異端反駁」『キリスト教教父著作集』19（教文館）ほか。

〈目次より〉

Ⅰ　私のイエス研究――序に代えて
Ⅱ　死人たちには未来がある
――マタイ八21-22／ルカ九59-60の新しい読み方
Ⅲ　「神の国」の「十二人」
――マタイ一九28／ルカ二二28-30によせて
Ⅳ　イエスの変貌（マルコ九2-8）と「上昇の黙示録」
Ⅴ　ユダヤ主義キリスト教の終末論
――原始エルサレム教会から後二世紀まで
Ⅵ　フィロンと終末論
――「上昇の黙示録」との対比において
Ⅶ　史的イエスの伝承の判別規準によせて
――結びに代えて
付論1　「ナザレ人」と「ナゾラ人」
付論2　偽クレメンス文書（あらすじ）

四六判・上製・360頁・定価4,950（本体4,500円＋税）・ISBN 978-4-7642-6159-4　C0016